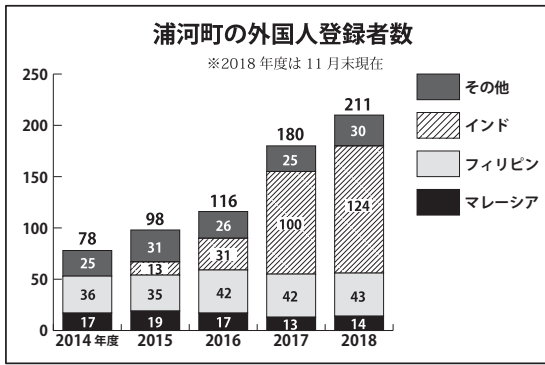


浦

河町には、2000人を超える外国人が暮らしています。以前はフィリピンやマレーシアからの出身者が主流でしたが、4年前には1人もいなかったインド人が半数を超えました。

インド人が急増する背景は、軽種馬産業で騎乗員として雇い入れているためで、競馬が盛んなインドで調教師として働いていた仕事ぶりが評判を呼び、瞬く間に広がっていききました。

その一方で、言葉の問題、健康保険制度や交通ルールの周知など、外国人労働者の生活環境の整備が求められています。



外国人の暮らし

vol 1



軽種馬牧場

(写真左から) ボアンさん (36歳・マレーシア)、タジャリアさん (55歳・シンガポール)、ハサンさん (31歳・インド)、ハムディさん (60歳・マレーシア)、アラムさん (34歳・インド)

生活に必要なものは買えるし、食材で足りないものは母国から送ってくれるので、不便は感じていません。服もインターネットで買えるしね。

休みの日は、母国にいる家族とテレビ電話で話したりして、過ごしているよ。

母国に帰るときは、千歳空港までバスに乗って行くけど、もう少し便が増えるといいよね。

職場の声

インドの2人はほとんど日本語が話せないけど、騎乗員の仕事は日本でも違いはないし、見よう見まねですぐ覚えているよ。

うちでは10年ほど前から外国人を雇っています。就労ビザの手続きが手間ではあるけど、今は特に大きなトラブルもないよ。

町では、浦河警察署と連携して町内外国人向けの交通安全教室を開いたほか、今年度からテレビ電話の通訳サービスを試験導入。12言語の通訳に対応可能なタブレット端末を役場窓口に置き、言葉の壁の解消に向け、取り組んでいるところです。

母国に家族を残し、はるばる海を渡りやって来た外国人の皆さんの浦河での暮らしぶりについて、1月号と2月号の2回にわたってお知らせします。



軽種馬牧場

ディオンコさん
(52歳・フィリピン)

生活面で、不便はあまり感じていません。母国にいる妻と子どもにはなかなか会えないけど、インターネットでいつでもテレビ電話で話せるしね。

税金のこととかわからないことがあれば、職場の人が丁寧に教えてくれるので、助かっています。

職場の声

彼はとても真面目な性格で、頑張りやさん。とても信頼できる人物です。

今は外国人が増えていますが、健康保険のこととか、制度の理解が追いついてません。役場から送る通知も、もっと配慮が必要なのではないでしょうか。

テレビ電話通訳サービス
試験導入しています



町では、タブレット端末を使ったテレビ電話で、役場に来た外国人と通訳できるテレビ電話通訳サービス「テレビde通訳」を試験的に導入しています。英語や中国語、インドの公用語・ヒンディー語、フィリピン語など12言語に対応しています。(町民課窓口)に配置しています)

問 役場企画課 ☎ 26-9012